

まだ大丈夫は、 もう危ない

道路のあちこちにあたりまえのように見かけるマンホールの蓋。

一見、しっかりと据えられているように見えますが、その5つにひとつはすでに耐用年数を超えてしまっているのです。マンホール蓋の裏面は

下水道から発生する硫化水素により腐食が進み、表面は大型トラックなどの荷重に常に痛めつけられています。腐食により蓋が割れる。表面が摩耗して濡れるとスリッパしやすくなる。蓋との段差につまづく。さらに、旧式な蓋だと局地豪雨の増水で蓋の下の内圧が高まり、蓋そのものが吹き飛び、人が落下する危険すらあります。

その深刻さが見えにくいいため、どうしても交換やメンテナンスが後手に回りがちなマンホールの蓋。全国 **1,600万基** あるマンホール蓋の1/5、約 **350万基** のリスクを抱えた蓋の危険は、事故が起きてから気付いてももう遅いのです。



さあ、蓋交換！計画的な実行を！

マンホール蓋の交換ペースは、年間**10万基**が現状。すでに危険な蓋を取り替えるだけでも30年以上かかります。さらに、耐用年数を過ぎた蓋は30年の間にもどんどん増え続けるのです。住民の利便性を支える下水道マンホールの蓋が、逆にリスクになる事態を放っておくわけにはいきません。日本グラウンドマンホール工業会はマンホール蓋の計画的な維持管理と危険な蓋の早期取替の実行をサポートします。

